アーカイブ室新聞　（2008 年 5 月 26 日　第 11 号）

国立天文台・天文情報センター・アーカイブ室　中桐正夫

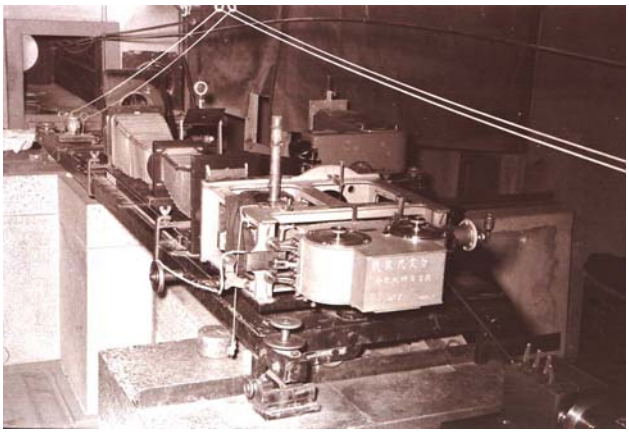
＊　Ca-K ライン分光器を PMC に展示

大赤道儀室 1 階の元暗室だった天文情報センター倉庫に裸で埃まみれになって転がっていた太陽グループが昔使っていた Ca-K ライン分光器を中桐の部屋に持ち込み掃除を始めて何ヶ月か経ってしまった。この分光器は掃除を終えて見違えるほどきれいになり、PMC を博物館的に有効利用しようと展示品として考えていたが、PMC に持ち込むのが延び延びになっていた。204 号室の打合せ用机を占領して日が経ってしまい遂に意を決して PMC に持ち込んだ。この分光器について解説文を日江井名誉教授に依頼してあったが、まだ用意できていないので、解説なしで PMC のガラス室の近くに展示した。

この分光器は、今やその存在を知っているものは国立天文台現役ではいなくなってしまった「おばけ」と呼ばれた観測室の「サイデロスタット」から導かれた太陽光のカルシウム K ラインの観測装置である。そのサイデロスタットも「おばけ」がなくなるとき、捨てられる運命であったこの器械を守った御仁がいた。しかし、重すぎて適当な保管場所に置けないで、長い間、26 インチドーム（大赤道儀室）の外階段に下にビニールシートに包まれて放置されていた。これをいかにもかわいそうと中桐らが歴史館となった大赤道儀室 1 階の展示フロアに持ち込んでいた。下の写真が「おばけ」と「サイデロスタット」である。

そして、現在、歴史館に展示されている「サイデロスタット」が左の写真である。

「おばけ」で観測していた時の CaK 分光器の雄姿が下の写真である。



＊　余談：めだかの卵が孵化した

中桐の机には、天文台の廃棄物捨て場から拾ってきた 60cm 水槽の他にも小判型の水槽になる透明な容器を拾って、めだかを飼っている。この水槽にも中桐家で生まれ育っためだかを 7 匹入れている。めだかは産卵をなかなか確認できないので、中に入れた「やしの繊維」を適当に別の水槽に移していたところ、5 月 24 日午後、稚魚が泳いでいることに気がついた。めだかの赤ちゃんお誕生である。